大阪生野区　猪飼野地区を訪ねて

斎　藤　悦　子

猪飼野は、JR鶴橋駅から歩いて15分程の場所に位置するコリアタウンである。私たちは、①猪飼野の歴史を知り、②在日韓国朝鮮人の人々の暮らし、経済活動を理解することを目的に猪飼野を訪れた。

鶴橋駅で、在日朝鮮人大阪府生野商工会　副理事長の尹　玉洙さん、部長の金　槇子さんが出迎えて下さった。お二人の案内で、活気にあふれる猪飼野商店街に足を踏み入れた。商店街には、食材や衣料、日用品がぎっしりとならび、普段見ることのない珍しいキムチや餅、蒸し豚、色鮮やかな結婚衣裳に目を奪われた。何もかも原色の世界で、まるで異国にいるようである。私は、このコリアタウンを横浜のチャイナタウンと似たようなところではないかと想像していた。しかし、ここに並ぶ全てのものは、チャイナタウンのように観光客向けに作られているのではなく、日本という国で、いかに生活していくか、人々の暮らしぶりが垣間見られるものばかりである。

尹さん、金さんのお話によると、この地に暮らす多くの人々は、韓国の釜山や済州島出身者だそうだ。大正末期から昭和初期にかけて、大阪と済州島を結ぶ阪済航路が開設され、約１万人の済州島出身者が渡航した。猪飼野は、ゴム工場、ネジ工場、錠前工場、皮革工場など多くの小企業、零細企業があり、働き口が多いこの地に渡航者は移り住み、コリアタウンが形成されていったという。

商店街を東に抜けると、「つるの橋」跡という記念碑が建っている。「つるの橋」は、鶴橋という地名の由来であり、日本最古の橋とされている「猪甘津」の橋の古跡である。猪飼野は「猪甘津」の伝承の地であり、５世紀ごろ百済からの多くの渡来人が定着し、この一帯は百済野と呼ばれていたそうだ（尹さんから頂いた資料「歴史探訪　街道を行く…猪飼野」による）。何世紀もの時間を隔てて、同じ地に同じようにコリアタウンが作られたことは興味深い。

1973年に猪飼野は「桃谷」という地名に変更された。しかし、猪飼野という地名、歴史は、ここで生まれ育った人々によって大切に守られ、後世に語りつがれている。そうした活動が、このコリアタウンを地に足のついた生活感あふれる街にしているのだと思った。